

シルバーで再会



▲師弟の間柄のように息もぴったり

息の合ったリフォーム作業
七月の就業で一番活躍したのは大工の皆さんです。特に宮平正雄さんと喜久川政義さんのコンビで行った家のリフォーム作業は、依頼者の方から大変喜んでいただきました。
玄関の靴箱の取り付けや床の張替え、「床の間」を取り壊して収納棚を取り付けました。また、子ども部屋のドアを引き戸に変え、とても機能的になりました。
これだけの就業内容を短期間で終えることができたのは、何といても二人のコンビネーションの良さです。阿吽（あうん）の呼吸で、ときばきと働く姿はとても頼もしいものでした。

南城市

シルバー人材センター

通信

第4号

平成20年
8月25日発行

編集発行
南城市シルバー
人材センター
Tel.098-852-6655

会員数
(8月1日現在)

116名

受注件数
(7月分)

26件

受注金額
(7月分)

1,881,321円

就業人日
(7月分)

309人日

実は宮平さんと喜久川さんのお二人は、数年前に一緒に働いていたことがあり、アパートやマンションの大工仕事をしていた。
それぞれ引退をし、のんびり過ごしていましたが、南城市シルバー人材センターが設立され、その会員として偶然再会したので。
そして、今回再び、大工として一緒に就業することになりました。
宮平さんは、「喜久川さんはとても仕事が速くてついていくのが大変だったよ」とその仕事振りを語ってくれました。
シルバー世代になったお二人ですが、大工仕事のスピードと緻密さは、若い頃をほうふつとさせる仕事ぶりでした。
今回久しぶりにコンビを組んで仕上げたAさん宅のリフォームは、とても気合の入った就業でもあっただけに、お二人とも「とても疲れたけど楽しかった」と、大満足でした。
このようにシルバー人

会員さん登場



稲福幸子 さん
(稲嶺)

昨年まで、工場で働いていましたが、年齢制限でリタイアしました。
そんななか、先に南城市シルバー人材センターに入会していた夫が楽しそうに就業している姿と夫の勧めもあり、私もセンターに入会しました。
入会後は、ホームクリ

ーニング（掃除）の作業を行いました。手の届かない汚れを他の会員と協力して落とすことができました。ときは、なんともいえませんでした。依頼主から喜ばれ、自分もうれしくてやりがいがある作業です。
今後は、家事援助などの作業も行いたいです。



▲まだまだ若いものには負けません。

材センターでは元同僚、同級生や親戚といった絆で結ばれている会員が多く、就業の合間の休憩時には、昔なつかしい話に花が咲きます。これが心身共に健康の秘訣とも言えます。

仕事百景



▲ 除草作業に精を出す

★農業補助★
写真は、ビニールハウス内で根っこから抜く除草作業です。派遣した会員は、とても細やかな作業をするため、定期的な仕事の依頼があります。

炎天下で影の力発揮
浜の真砂は尽きるとも世に盗人は尽きぬもの、とよく言う。将に人間社会のゴミも尽きぬものであり、むしろふえ続ける一方である。
人間は身勝手な存在だ。グランドや公園、道路にチリやゴミを無造作に捨てる人多々見受けられる。そのくせ公共施設のチリの散乱、汚れに對し当局への批判は大である。
このような批判を回避すべくシルバーの会員は有償とは言え天下にも拘らず、黙々と公共施設の清掃チリ拾いを続ける縁の下力持ちである。
(知念)
今年の夏は北京オリンピックで感動の日々、おかげで寝不足が続いた。
一番の感動は北島選手の水泳での二個の金メダルだ。
勝利の要因は、「勝負脳」を鍛えることだという。その一つに「否定的なことを考えない」ことだそう。暑い・疲れた・面白くない・など・それは人生勝利にもつながる。しかし、我がシルバーは「暑い」なかでも、よく頑張っている。
(屋我)